

実証運行に関わる調査について

1. これまでの意向調査の整理

(1) 幅広い層の村民意見

- 全世帯アンケート（H24年度）：全体の交通移動状況
- 施設利用者アンケート（H25年度）：商業施設や病院において幅広い年代の方の意見を確認
- 地域の集まりでのヒアリング（H26年度）：一部の地区において、公共交通に対する意向を確認

上記調査により、新たな公共交通の利用ターゲットは

1. 車を運転できない人（高校生以下、高齢者を中心とする免許のない人）
2. 手段がないので車を運転している人（70歳以上など、利用転換を目指す）

とする方向が確認できている。

また、上記の利用ターゲットのうち、以下の移動は、既存路線バスや通学バスを活用する。

1. 現状で、路線バスや通学バスで通学が可能な者（中城南小学校、中城中学校、路線バス30番で通学可能な高校など）
2. 村外への移動（路線バスの乗り継ぎ）
3. 平坦地区の相互移動（既存バス停から離れた地域、中城小・津覇小の通学は考慮）

(2) 利用ターゲットの意見

<公共交通利用者の意見>

- 護佐丸バス利用者アンケート（H25年度）：利用する可能性が高い層

<高校生以下の意見>

- 子ども会へのアンケート（H25年度）：小学生の親を対象とし、小学生の行動パターンなどを把握
- PTAへのヒアリング（H26年度）：一部の地区において、小学生の親を対象に実施
- 3高校通学者へのアンケート（H25年度）：村内在住の普天間高校、中部商業高校、西原高校の生徒を対象に実施

<高齢者の意見>

- 施設利用者アンケート（H25年度）：老人福祉センターの利用者への調査
- 老人会アンケート（H25年度）：
- 老人会へのヒアリング（H26年度）：この調査でデマンドについても確認

上記より、①これまで様々な意向調査を行っていること、その上で、②利用ターゲットを定め、優先度をつけて対応する必要があることなどから、実証運行利用者へのアンケート以外の意向調査は実施しません。ただし、実証運行の結果、当初の狙いと実際の利用状況がズレている場合などには、来年度以降、別途意向調査で補完する可能性があります。

2. 実証運行に関わる調査の概要

調査内容	バス	デマンドタクシー
乗降・OD（起終点） 調査	調査員乗車による調査 ※平日は前・中・後の3日、休日は後半1日の計4日を想定）	予約時（毎日記録） ※運行ルートも記録
遅延調査	GPS ロガー（中盤以降数日）	拠点への発・着時間（毎便記録） GPS ロガー（中盤以降数日）
カウント（利用者数） 調査	運賃受取の際に区分（毎日記録）	予約時（毎日記録）
利用者アンケート	乗降・OD（起終点）調査の際に調査員が配布、別途で社内留置 ※利用に慣れて以降の状況も確認	社内留置（運転手に声掛けを依頼）

3. 調査での検証内容

○バス

目的	調査	反映方法
運賃有料化による利用者の変化	カウント、乗降、利用者	基本的に本年度の実証運行の運賃としたいが、利用者が想定よりも伸びなかった場合、回数券・キャンペーン・タイアップなど特別割引での対応についても検討する。
経路地や乗り継ぎの変更による利用者の意向	カウント、乗降、利用者	必要に応じて経路地の見直しを図る。現在は、乗り継ぎなしの路線でいきたいと想定している。
ダイヤ設定の妥当性（時間帯、遅延）	すべて	利用者の動きや遅延状況に応じ、ダイヤを再設定する。
運行自体に対する評価	利用者	必要に応じて改善を検討
その他問題点の把握	すべて	必要に応じて対処法を検討

○デマンドタクシー

目的	調査	反映方法
運賃の妥当性	利用者	基本的に実験の運賃としたいが、利用者が伸びない場合、回数券・キャンペーン・タイアップなど特別割引での対応を検討。
運行形態に対する利用者の意向・評価	利用者	必要に応じて対処法を検討
運行の妥当性	カウント、乗降、利用者	総合的に評価し、本格運行の際の運行を検討
ダイヤ設定の妥当性（時間帯、遅延）	利用者、遅延	必要に応じてダイヤの再設定
運行自体に対する評価	利用者	必要に応じて改善を検討
その他問題点の把握	すべて	必要に応じて対処法を検討

4. 意向調査調査内容の想定

○回答者の属性

年齢	性別	居住地域

○利用状況

これまでの回数	利用頻度	よく利用する時間帯
利用するバス停・目的地	乗り継ぎ利用の有無	

○運行への評価

ルート	運行間隔	運行時間
車両	運賃	

○要望(フリーアンサー)

ルート	運行間隔	運行時間
車両	運賃	その他